

年 組 名前:

視覚障害者に生活情報

聞き手に伝わりやすい話し方を学ぶ参加者＝笛吹市内



朗読奉仕員が読み上げた音声を収録したCDは、社協が視覚障害者の自宅まで郵送して、現在9人が利用している。利用者には「生活に役立ち、イベントの日程も知り、市内各地の既存のサークルに加わったりして、ボラン

笛吹市社協 15年以上音読、CD化

笛吹市社会福祉協議会は、15年以上にわたり、視覚障害者のために広報誌を音読したCDを届ける活動に取り組んでいる。声を吹き込んで録音する朗読奉仕員の養成にも力を入れている。朗読奉仕員の養成は、朗読技術を磨いて正確な情報を届けるのが目的。講座の修了生は朗読サークルをつくらせ、市内各地の既存のサークルに加わったりして、ボラン

奉仕員養成へ講座開設も



ティアで市や社協の広報誌の録音作業を担う。養成講座の受講対象者は、市内在住か在勤の人。市から委託を受け、本年度は8月から10月に全8回の講座を開いた。最終回の10月2日には6人が参加。音訳図書などを製作するボランティア団体「山梨青い鳥奉仕団」の武勝紀子理事長が講師となり、聞き手に伝わりやすい間の取り方や発音方法、録音ソフトの扱い方などを学んだ。笛吹市内の事業所に勤める深沢美保さん(47)＝山梨市下石森＝は「抑揚をつけずに正確に話すのは難しかった。奉仕員としての活動を頑張っていきたい」と意気込んだ。同様の試みは甲州、甲斐の両市など他地域の団体でも行われているという。笛吹市社協の担当者は「障害の有無にかかわらず、生活に必要な情報をきちんと届けたい。今後も講座への積極的な参加をお願いしたい」と話している。

(2024年11月6日付 山梨日日新聞19面)

問1

笛吹市社会福祉協議会が、視覚障害者のために取り組んでいる活動を教えてください。

.....

問2

朗読奉仕員の養成をする目的を、教えてください。

.....

問3

講座参加者は養成講座で、どのようなことが学べましたか。

.....